これは翻訳ではない
——『砂の子ども』誤訳の分析——
(2)

神田　大吾

食卓に出された卵の殻を割ったら，中からトロリと白身が流れ出した。それでも殻を全て剥き，全て口の中に入れて味わってみなければ，その卵が半熟だと分からないものだろうか。

『砂の子ども』の翻訳（紀伊国屋書店，1996年刊）が欠陥商品であることは，些細な傷から推測できる。例えば第8章後半に三通の手紙が出てくるが，その日付けを見てみよう。原文はイタリック体で句点である。縦書き日本語にはイタリック体がないから，代わりに傍線を引くか，傍点を打つか，あるいはゴチック体にでもするか，処置の仕方は翻訳者の判断に委ねられるが，原文の表記方法が一定であるならば，翻訳も一定の形に統一すべきであろう。少なくとも，「四月八日　木曜日，」(81ページの5行目。以下，“81-5” と略して表記する)「土曜の夜。」(83-3)「四月十三日　火曜日」(86-4) という具合に，一字空きと読点/空けずに句点/一字空けて句読点ナシ，と三通りに訳し分けるのは，おかしい。ましてや，第9章の日記において，「**四月十六日，夜。**私は浴槽の中で眠った。*16 avril, le soir.* J'ai dormi dans ma baignoire. (Tahar Ben Jelloun: *L'enfant de sable*, Seuil, 1985, 95ページの16行目)」という部分を，「四月十六日　夜，浴槽の中で眠った。」(90-9) とすれば，日付けとそれに続く文章との区別が紛らわしいし，「四月十七日」(91-2) の手紙には，「朝」の一語が脱落している。極め付きは四月二十五日の日記に続く，もう一つの日記。「朝すぐに出発でき，旅をしてさまよい，」(100-7) と翻訳されているが，冒頭部分は日付けである。即ち，「**同じ日の朝。**私は，«*Le matin même.* Je ne sais si c'est une chance ou (104-20)」なのである。

日付けをどう翻訳するかは，些細なことではある。しかし，小さな部分をないがしろにすると，大きな部分で泣きをみる。「私たちは兄弟であり，姉妹なのです。」(72-1) という文章は，一見，何の変哲もないが，原文は Nous serons frère et soeur! (76-2~3) である。動詞が単純未来形 serons であり，frère も soeur も単数形である。結婚しても決してベットを共にしようとしない夫に対して話しかける新妻の台詞，という文脈を合わせて考えれば，これは「私たちは，**お兄さんと妹になりましょう!**」と訳すべき所だった。原文を丁寧に読まず，感覚的に訳して省みることがなければ，やがては大きなミスにつながる。「判事にユーモアはなく，**こっちも笑う気になれない。**Un juge, ça n'a pas d'humour et ça ne donne pas envie de rire (97-16~17)」という文を，「判事にはユーモアはないが，彼の存在そのものが笑いを誘う」(92-9) と誤訳してしまったのは，決して偶然ではないのだ。

日本語において，「母親」とは，自分の母親を指して使うのが普通である。少なくとも，

『人文学科論集』34, pp. 73-96.
© 2000 茨城大学人文学部（人文学部紀要）

「あなた」と丁寧に呼びかけている手紙であれば，その人に向かって「あなたの母親」と書くよりは，「お母様」とする方が自然であろうが，そういった議論以前の基礎的な不備が，『砂の子ども』の翻訳にはおびただしい。前稿[1)]に引き続き，今回は『砂の子ども』第6章から第10章を検証する。ここにおける翻訳上の欠陥を

A. 改行の新設または削除，B. 文の脱落，C. 単語の脱落，

D. 二文の合成，E. 文意の誤訳，F. 単語の誤訳，G. 記号の改変

の七種類に分けて，各ページごとに何カ所あるかを図示したものが，次の表である。

	A	B	C	D	E	F	G
	改行の新設/削除	文の脱落	単語の脱落	二文の合成	文意の誤訳	単語の誤訳	記号の改変
62			××××	×	×	××	
63			××××			×	
64		×	×	×		××	
65	×		××	××		×	
66			××××		×	××	
67			×××××	×		×	
68			××				
69			×××	×	×	××	
70			××××××××	××		×××	×
71		×	×	×		×	
72			×××		×	××××××△	
73					×	×	
74			××××××			×××	
75		×	×××××		×	××	
76			×		×	××	×××
77							
78			×××		××	××	
79			××	×	×		
80			××××				
81			××××		×		
82			××	×	×		
83			××		×		×
84	×		×××			×××	
85			××××	×	×	×	
86	×	×			×		
87					×		
88			××				
89	×	×	×××			×××××	
90	×		×		×	××	×
91		××					
92					×	×	×=10
93			×××			××	×
94			×		×		××
95			×××	××	×	×	
96	×	×					×
97			×××	××	×		
98			××	×××××	×		×
99	×		×		×		×
100			×			×	
101				×			
102			××	×		××	
103			××	×		×	
104					×	×	
105			×			××	

以下，これを具体的に見ていこう。翻訳のページ，原文とそのページ，改良試訳の三つ一組で示す。

第6章

62-1: 今，われわれは，壁の裂け目にすべり込まねばならない。

Nous devons à présent nous glisser par les brèches dans la muraille, (65-1~2)

☞ 今，われわれは，裂け目から壁の中にすべり込まねばならない。

62-1~2: 爪先で歩き，耳をそばだてるのだ。

nous devons marcher sur la pointe des pieds et tendre l'oreille, (65-2~3)

☞ 爪先で歩き，耳をそばだてねばならない。

62-3: 静まっていく世界

le monde qui s'assoupit (65-6)

☞ 寝静まっている世界

62-4: おお，友よ。おれは，超然とした至高の神を語ることはできない。

Ô mes amis, je n'ose parler en votre compagnie de Dieu, l'indifférent, le suprême. (65-7~8)

☞ ああ，友よ，私は，**みなさんのいる前では**，神のことを口にすることはできない。超然とした神，至高の神。

62-10~11: 彼は七人の姉を呼んで，こう言い渡した。

Il convoqua ses sept soeurs et leur dit à peu près ceci: (65-18~19)

☞ 彼が七人の姉を呼んで言い渡したのは，**だいたい**こんな言葉だった。

62-11~12: 今日から，ぼくは弟でもなく，父親でもない。姉さんたちの後見人になった。

«A partir de ce jour, je ne suis plus votre frère; je ne suis pas votre père non plus, mais votre tuteur. (65-19~21)

☞ 今日からぼくは，**もう**みんなの弟ではないよ。父親でもないけど，後見人だ。

62-12: ぼくには，監督する義務と権利がある。

J'ai le devoir et le droit de veiller sur vous. (65-21~22)

☞ ぼくには，**姉さんたちを**監督する義務と権利があるんだ。

63-1~2: 女が男に劣るとすれば。ママ それは神の意志でも，予言者の決定でもない，ママ 女がその運命を受け入れたからだ。

si la femme chez nous est inférieure à l'homme, ce n'est pas parce que Dieu l'a voulu ou que le Prophète l'a décidé, mais parce qu'elle accepte ce sort. (66-2~4)

☞ **わが国で**女が男に劣るのは，神がそう望んだのでもなく，予言者がそう決めたので

もなく，そういう運命を女が受け入れているからだよ。

63-5: お悔やみ状を受け取った。

Ahmed reçut [...] une courte lettre de condoléances (66-8~9)

☞ **短い**お悔やみ状を受け取った。

63-10~11: 体についたその黄色い液体が，死の場所と時間を思い起こさせる。

Je me vois enduit de ce liquide jaunâtre, celui qui rappelle le lieu et le temps de la mort. (66-18~20)

☞ 私は，体にその黄ばんだ液体を塗りたくられます。死ぬ場所と時間を思い出させる液体。

63-12: 今のところ，私は家長だ。

A présent je suis le maître de la maison. (66-21)

☞ **今や**，私が家長です。

63-13: 私は疑っている。

Et moi je doute; (66-23~24)

☞ **そして私はといえば**，疑っております。

64-3: 小道の端で

au bout du sentier (67-5)

☞ 小道の突き当たりで

64-5: （一文脱落）おそらく，

«Dois-je vous rappeler, (67-7)

☞ あなたに思い出してもらわねばならないのでしょうか。おそらく，

64-7: 追伸　毎朝，顔を洗うとき，（× en me lavant)

«P.S. Chaque matin, en me levant,

☞ 追伸　毎朝，**起きぬけに**，

64-10~11: 人の輪を横切り，

traversant en son milieu le cercle (67-17~18)

☞ 人の輪**の真ん中**を横切り，

64-14: 恐ろしい話だが，作り話ではない。

Elle est terrible. Je ne l'ai pas inventée. (67-24~25)

☞ 恐ろしい話だ。私の作り話ではない。

65-7: （原文にはない改行）

65-8: もう一度繰り返した。

en le répétant plus d'une fois (68-9)

☞ **何回か**繰り返した。

65-9: ファーティマは脚が不自由で，

la malheureuse Fatima qui traînait la jambe (68-11)

☞ ファーティマは**不幸な女**で，**片方の**脚が不自由で，

65-13: 二つの家族の関係は，険悪なものだった。

Les rapports entre les deux familles n'ont jamais été bons. (68-16~17)

☞ 両家の関係が良かったためしは**一度もなかった**。

65-14: 体面だけはなんとか保っていたが，それはまさに虚偽と呼ぶべきものだった。

Mais on sauvait souvent les apparences. C'est ce que certains appellent l'hypocrysie. (68-18~19)

☞ しかし，体面は保つことが多かった。それがいわゆる偽善というやつだ。

65-16~17: 女たちのあいだはぴりぴりして，浴場や親族の集まりで出会うたびに，いがみ合った。

Les femmes se chargeaient de maintenir vive la tension. Elles se disaient des petites méchancetés quand elles se rencontraient au bain ou dans une réunion familiale. (68-22~25)

☞ 緊張が緩まないようにするのは，女たちの仕事だった。浴場や親族の集まりで出会うたびに，言葉でチクチクやり合った。

66-1~2: アフマドに下心があるのではないかと疑ったのだ。

Il se doutait bien que ce geste d'Ahmed ne pouvait être sans arrière-pensée. (68-27~29)

☞ アフマド**のこの振る舞い**には必ずや下心があるはずだ，と思ったのだ。

66-5: 期待は無に帰し，

il fit son deuil de cette attente (69-3) [2)]

☞ その期待を断念し，

66-7~9: アフマドは，二つの家族は離れて暮らし，彼は妻と二人だけで暮らすという条件を出してきた。ファーティマは，浴場と病院に行く以外は外に出なかった。

Ahmed dit ses conditions: les deux familles resteraient à l'écart; il vivrait seul avec son épouse. Elle ne sortirait de la maison que pour aller au bain ou à l'hôital. (69-7~10)

☞ アフマドは，条件を出した。二つの家族は離れて暮らすこと。彼は妻と二人だけで暮らすこと。浴場と病院に行く以外は外に出ない**ように，と**。

66-9~10: 彼は，妻を名医に診せて，病気を治したいと考えていた。

Il pensait l'emmener consulter de grands médecins, la guérir, lui donner sa chance. (69-10~12)

☞ 彼は，妻を名医に診せ，病気を治そう，**機会を与えよう**，と考えた。

66-10~12: 彼の話は，哲学的な思考や断片的な思いを語ったもので，まったく理解できなかったが，最後に言った言葉だけは，よく覚えている。その言葉が気にかかり，不安にさえなった。

Il dit des choses qu'on ne comprenait pas tout à fait, des réflexions philosophiques, des

pensées disparates. Je m'en souviens bien car la fin de son discours m'avait intrigué et même mis mal à l'aise. (69-13~16)

☞ 彼の話は，何を言っているのかまったく理解できない事柄，哲学的な思考や断片的な思いを語ったものだった。私がそれをなぜよく覚えているかというと，最後の言葉が心に残り，妙な気分にされた**からだった**。

66-12~13:『ただ一人，絶対なるものを通過していく者として，

«Unique passager de l'absolu, (69-17)

☞『ただ一人，絶対なるものに乗り合わせた者として，

66-13: 私は虚偽の深い森の中で，

dans cette forêt épaisse du mensonge. (69-18)

☞ 私は，虚偽の**この**深い森の中で，

67-1: あなた方は，私が死んだ日に，私を知るだろう。

Vous aurez de mes nouvelles, le jour précis de ma mort, (69-26~27)

☞ あなた方は，私が死んだ**まさに**その日に，私について**なにがしか**，知ることだろう。

67-5~6: 講釈師は，アフマドが残した本を読んでいると言っているが，それは嘘だ。

Notre conteur prétend lire dans un livre qu'Ahmed aurait laissé. Or, c'est faux! (70-3~4)

☞ 講釈師様は，アフマドが残した本を読んでいるとおっしゃる。じゃがな，それは嘘じゃ!

67-7: だが，彼が汚いマフラーにくるんでいる，黄ばんだ古いノートではない。

Ce n'est pas ce vieux cahier jauni par le soleil que notre conteur a couvert avec ce foulard sale. (70-5~6)

☞ 講釈師様がこんな汚いマフラーにくるんでいらっしゃる，陽に焼けて黄ばんだこの古いノートではないんじゃ。

67-8~9: 幻想にとり憑かれた

victime de ses propres illusions (70-9~10)

☞ **自分が作り出した**幻想にとり憑かれた

67-15: この木の梯子を昇って，テラスの上に座るまで，待ってくれ。

je monte sur cette échelle de bois, soyez patients, attendez que je m'installe en haut de la terrasse, ... (70-18~20)

☞ 私はこの木の梯子を昇るが，**辛抱してくれ**，テラスの上に座るまで待ってくれ。

67-16~17: 悪徳の靄の中に後退していくアフマド　(× recul)

Ahmed reclus dans les vapeurs du mal (70-23~24)

☞ 悪の靄の中に**閉じこもる**アフマド

67-17~68-1: 毒矢で心臓を射抜かれた美徳の物語だ。

l'histoire de la vertu transpercée au coeur par tant de fléches empoisonnées. (70-24~25)

☞ **あれほど多くの**毒矢で中心を射抜かれた美徳の物語だ。

68-5: 聞こえてくる歌は

Ce chant que vous entendez (71-1~2)

☞ みなさんの耳に聞こえるあの歌は

68-8: おや，講釈師が戻ってくる。

Tiens, je vois là-bas notre vieux conteur revenir. (71-8)

☞ おや，**向こうから**，講釈師のお爺ちゃんが戻ってくる。

第7章

69-1: 二人の謹厳そうな老女が

Deux vielles femmes, sèches et grises, (73-1)

☞ 老女が二人，皺くちゃで銀髪で，

69-3: 連れてきた。

elles devaient me livrer (73-3)

☞ 連れてくるのが二人の役目だった。

69-5~6: 目を上げないのは，従属であり，義務であり，稀には尊敬や感動のしるしだからだ。

ne pas soutenir son regard par soumission, par devoir, rarement par respect ou à cause de l'émotion. (73-8~10)

☞ 目を上げない理由は，従属であり，義務であり，尊敬や感動のしるし**であることは滅多にない**。

69-6: 二人の老女に両方の腕をつかまれて，彼女は痛がった。

Les deux femmes lui tenaient chacune un bras, elles le lui serraient et lui faisaient mal. (73-10~12)

☞ 女二人は左右からファーティマの腕をつかみ，ぎゅっと締め付け，彼女に痛い思いをさせていた。

69-10~11: そのせいで呼吸ができなくなり，

Son sang perturbait sa respiration, (73-19~20)

☞ 血のせいで呼吸が乱れ，

69-11~12: 彼女の体は意識のかなたに去り，制御できない激しさで動き，彼女はたった一人で，風に対抗し，デーモンと闘った。

Son corps s'en allait, loin de sa conscience. Il se livrait à des gesticulations incontrôlées, se débattait tout seul, avec le vent, avec les démons. (73-21~74-2)

☞ 肉体は，遠く意識のかなたに去った。**肉体は**，どうすることもできない激しい身振りにさらされ，たった一人で風と格闘し，悪霊と格闘するのだった。

70-1: もつれた糸を解く

débrouiller les fils de tous ces noeuds. (74-3)

☞ こんな風に結ばれた糸の結び目をすべて解く

70-1~2: 彼女の体はしだいに元に戻って，発作は治まったが，

Son corps, lentement, revenait à elle, reprenait sa place, (74-3~4)

☞ 肉体はゆっくりと彼女の所に戻って来て，元の場所におさまったが，

70-3: そして普通の呼吸ができ，起き上がって走れることを，神に感謝した。

Elle remerciait Dieu de lui avoir redonné le pouvoir de respirer normalement, de se lever et d'aller courir dans la rue. (74-6~8)

☞ 普通に呼吸し，起き上がり，外を走り回ろう**という力を再び与えてくれた**ことを，神に感謝した。

70-5~6: せいぜい「おや，今度の発作は，先週のよりひどい... ，暑さのせいにちがいない」と思う程度だった。(原文の中断符号が欠落)

On disait tout au plus: «Tiens! Cette crise est plus violente que celle de la semaine dernière... Ça doit être la chaleur! ... » (74-9~13)

☞ せいぜい「おやまぁ！今度の発作は，先週のよりひどいよ。... きっと暑さのせいだ! ... 」**と言う**のが関の山だった。

70-7~9: 姉妹や兄弟は，それぞれ将来の希望に満ち，計画を立てていたが，社会に出るのに資金が少ないことに苛立ち，この調和の中で不協和音をかもしている妹の存在に少し当惑していた。

Ses soeurs et frères étaient à leur place, pleins d'avenir, heureux de faire des projets, un peu irrités de ne pas avoir beaucoup d'argent pour davantage paraître en société, un peu contrariés d'avoir une soeur qui apporte une fausse note dans un paysage harmonieux. (74-14~19)

☞ 姉妹や兄弟は**自分の居場所にいて**，将来の希望に満ち，あれこれ計画を立て**て幸福感に浸り**，もっと世間の注目を浴びるほどたくさんお金がないことに少し苛立ち，**調和の取れた風景に調子外れの音**を響かせる妹を持っていることがやや腹立たしかった。

70-12~13: 家族の中で，彼女に優しさを示す者はだれもいなかった。彼女は，自分を取り巻く惨めな憂鬱の中に沈み込んでいた。

[...] et, puisque personne dans sa famille ne lui manifestait de la tendresse, elle sombrait dans une espèce de mélancolie pitoyable où elle cernait son être. (74-23~26)

☞ そして，家族の中で彼女に優しさを示す者はだれもいなかった**から**，惨めな憂鬱**とでもいったもの**の中に沈み込み，自分を包み込むのだった。

71-5~6: 右足がやせ細っているにもかかわらず，彼女の体は引き締まって，固かった。

Son corps était ferme malgré sa jambe droite menue. Ferme et dur. (75-12~13)

☞ 右足がやせ細っているにもかかわらず，彼女の体は頑丈だった。**頑丈で，固い。**

71-7: それは性的な欲望からではなく，

pas pour exprimer un quelconque désir sexuel, (75-16)

☞ なにがしか性欲を表に現すためではなく，

71-12: 最小限の武器

les moyens du bord (75-23)[3)]

☞ 応急の手段

71-12~13: 彼女はよく出血したが，そのことを血が怒っている，血を保って活かすのに自分はふさわしくないのだと言った。

Elle avait souvent des hémorragies. Elle disait que son sang se fâchait et qu'elle n'était pas digne de le garder pour en faire quelque chose de bien. (75-24~26)

☞ 彼女はよく出血した。血が怒っている，血を外に出さないで何か良いものにするには自分はふさわしくない，と言っていた。

72-1: 私たちは兄弟であり，姉妹なのです。

Nous serons frère et soeur!

☞ 私たちは，**お兄さんと妹になりましょう!**

72-1: あなたは私の魂，そして私の心。(× Tu es ...)

Tu as mon âme et mon coeur, mais (76-3)

☞ 私の魂，私の心は**あなたのもの**だけど，

72-3: 夜のあいだ

au début de la nuit (76-6)

☞ 夜の始めに

72-4~5: 私が秘密を明かさずに，彼女に告げようとしていたことを，彼女は先回りしたのだろうか。

Voulait-elle précéder le discours que j'avais mentalement préparé pour l'avertir sans lui dévoiler mes secrets? (76-8~10)

☞ 秘密を明かすことなく彼女に知らせるために私が**心の中**で準備していた説明を，彼女は先回り**しようとした**のだろうか。

72-5~6: だが結局，単に彼女は長いあいだ，性（セクシュアリティ）を奪われていたからだと考えることにした。

Je finis par penser tout simplement qu'elle avait, depuis longtemps, annulé en elle toute sexualité et (76-10~12)

☞ 結局私は，彼女がとうの昔から彼女の中で性欲を押し殺してしまったのだと，ごく単純に考えることにした。

72-7: 病気か逸脱を糊塗するための社会的な方途として

mais pour un arrangement social, pour masquer une infirmité ou une perversité (76-14~15)

☞ 社会的な体裁を整えるため，体の障害か倒錯を隠すために

72-9~10: あるいは私が性的に不能で，面目を保つために結婚したのだと考えたにちがいない。こうして，私はありとあらゆる見せかけを演じて生きていく

[Elle devait penser que j'étais un homosexuel ...]; ou bien un impuissant qui voulait sauver les apparences! J'aurais ainsi passé ma vie à jouer avec les apparences, toutes les apparences, même celles qui (76-17~20)

☞ あるいは私がインポで，うわべを取り繕いたがっているのだ，と！うわべ，ありとあらゆるうわべをおもちゃにしながら，私はそんな風に人生を送ったかもしれない。

72-11~12: それは石膏を塗ってもいないし，

sans couche d'argile (76-21~22)

☞ 粘土の層もなく，

72-16: 慎みが

Pudeur et chasteté (76-29)

☞ 慎みと禁欲が

72-17: そっと覆いをめくると

Je soulevai doucement les draps (77-1)

☞ そっとシーツをめくると

73-1~2:それを見ると，気持ちが削がれるか，いっそ壊したいと思わせるようなものだった。

[...] décourageant le désir ou alors le provoquant pour mieux le casser. (77-3~4),

☞ 欲望を萎えさせるか，あるいは欲望をかきたてておいてから粉々にする

(翻訳は pour mieux la casser (= une culotte) として訳している。)

73-16: 立ち去った旅人 (× passés)

des voyageurs pressés (78-3),

☞ **急ぎ足の**旅人

74-2: それは洞窟へつながっていた。(× caverne)

me conduisaient à la cave (78-9),

☞ それは**地下室へ**つながっていた。

74-3: その原始的な洞窟の中に

dans cette cave, véritable grotte préhistorique (78-11~12)

☞ この地下室，先史時代の本物の洞窟の中に

74-6: 伏せた眼差し

ce regard fermé (78-20)

☞ 閉じた目

74-6~7: コルセットをつけた腹，否定された不在の性

ce ventre gainé, ce sexe absent, nié, refusé, (78-20~21)

☞ コルセットをつけたこの腹，存在せず，否定され，**拒否された**この性器

74-7~8: ぼやけた死の顔に触れ

toucher des doigts le visage frêle et imprécis de la mort (78-22~23)

☞ **かぼそく**，輪郭のはっきりしない死の顔に**指で**触れ

74-9~10: 鼠がそれを囓ろうとして諦めた。毒を含んでいるからだ。

les rats avaient essayé de les manger mais ils avaient dû renoncer car elles étaient enduites d'un produit toxique (78-25~27)

☞ 鼠がそれを囓ろうとしたが，諦め**ねばならなかった**。毒物が**塗られて**いたからだ。

74-16: 父が不振のまま残した家業

des affaires laissées plutôt en mauvais état par mon père (79-7~8)

☞ **いくぶん**傾きかけた状態で父が残した家業

75-1~2: 私が自ら画策し実行したことは，失敗に終わった。

Je venais d'échouer dans le processus que j'avais préaré et déclenché, (79-12~14)

☞ 私が計画し，引き金を引いたことは，**途中で**失敗に終わってしまった。

75-8: 動かしがたい会話の中に (× conversation)

dans sa conviction inébranlable (79-24)

☞ 揺るぎない**信念**の中に

75-9: そしてしだいに消えていこうとしていた。

[...] et s'acheminait sûrement vers la disparition, vers l'extinction lente. (79-25~27)

☞ そして，姿を消すこと，ゆっくりとした消滅へと向かって，**確実に**進んで行くのだった。

75-11: 話もしなくなった。

[...,] ne parlait presque plus. (79-29~30)

☞ **ほとんど**話もしなくなった。

75-12: 夜，彼女は私の部屋を占領し，

La nuit, elle envahissait ma chambre (79-31)

☞ 夜になると，彼女は私の部屋の中に忍び込み，

75-15: 私は，この光景を前にして，どうすればいいのか，どうすれば避けられるのかわからなかった。

Je ne savais plus comment réagir ni comment éviter ces scènes pénibles. (80-5~6)

☞ この**つらい**光景を前にして，私はどうすればいいのか，どうすれば避けられるのか，**もう**わからなくなってしまった。

75-16: 彼女を愛するただ一人の人間だから

le seul être qu'elle aime (80-7)

☞ 彼女**が**愛するただ一人の人間だから

75-17: (一文脱落) 私が眠っているあいだに,

Je ne comprenais pas jusqu'au jour où (80-8~9)

☞ **私にはずっとわからなかったが**, ある日のこと, 私が眠っているあいだに,

76-5: ある晩, 彼女の目は, すでに

Elle me dit un soir, les yeux déjà (80-18)

☞ ある晩, 彼女は**私に話しかけた**。目はすでに

76-8~9: 私たちは二人とも, 愛のない眼差しに囲まれ, 不毛の大地で, 枯れ井戸の底石の上で生まれた。

Nous sommes toutes les deux nées penchées sur la pierre au fond du puits sec, sur une terre stérile, entourées de regards sans amour. (80-24~26)

☞ 私たちは二人とも, 生まれたときから, 涸れ井戸の底の石, 不毛の大地にかがみこみ, 愛のない眼差しに囲まれていた。

76-12: たいしたことではない... (原文には中断符号はない)

76-13: (原文の中断符号が欠落)

76-14: (原文の中断符号が欠落)

76-15: こう言った。

[...] d:ra: (81-3)

☞ こう言うだろう。

76-15:「私を食べてほしい。

«Remange-moi, (81-4)

☞ もう一度, 私を食べてちょうだい。

第8章

78-1~2: 悲惨で, 理解しがたいものだ。

[...] fut pénible, trouble et incompréhensible. (83-1~2)

☞ つらく, 心を乱され, 理解できない代物**であった**。

78-5: アンタルという恐ろしい男

un être terrible, qui se faisait appeler Antar: (83-9)

☞ アンタルという名で呼ばれた, 恐ろしい男

78-6: 彼は冷酷無比で, 恐怖の的だった。

c'était un chef impitoyable, une brute, une terreur (83-9~10)

☞ 冷酷な頭(かしら)，**野獣**，恐怖の的であった。

78-8: 命令には絶対に服従しなければならなかった。

jamais il ne fut désobéi. (83-14)

☞ 命令に背かれたことは一度もなかった。

78-8~9: 彼は自分の軍隊を持ち，公権力に楯突き，占領者に抵抗した。

Il avait sa propre armée et résistait à l'occupant sans jamais mettre en question l'autorité centrale. (83-14~16)

☞ 彼は自分の軍隊を持ち，占領軍に刃向かったが，**中央政府に楯突くことは一度もなかった。**

78-10: 買収者を追い出し，堕落した者を罰した。

[Il] faisait la chasse aux corrupteurs et punissait les corrompus, (83-18~19)

☞ 買収した者を狩りだし，買収された者を罰した。

79-7~8: 部下たちは，彼が不意打ちにいくのだと思っていた。

ses troupes pensaient qu'il voulait les surprendre; (84-13~14)

☞ 部下たちは，自分たちを驚かせようとしてそんな格好をするのだろうと思った。

79-8: 荒くれた若い男

un jeune homme à la beauté rude (84-14~15)

☞ 野性的な美貌の持ち主である若者

79-11~12: 彼女は彼に金を与えようとしたが，男は断った。

Elle lui offrait de l'argent. Il le refusait; (84-20~21)

☞ 彼女は彼に金を差し出した。彼は断った。

79-12~13: 安全を保証した。

[...] lui garantissait le maximum de sécurité (84-22~23)

☞ **出来る限りの**安全を保証した。

80-3~4: 彼は群衆に紛れたか，揺れる大地に飲み込まれてしまった。

Il a dû se perdre dans la foule ou être avalé par la terre tremblante. (85-7~8)

☞ 彼は群衆に紛れたか，揺れる大地に飲み込まれた**に違いない**。

80-14: 混乱した文章を

des choses confuses ou illisibles. (85-26~27)

☞ 支離滅裂な，あるいは判読不能の文章を

80-15: 以前と同じ細かい丁寧な字体

la même écriture, fine, appliquée, secrète. (85-29~30)

☞ 小さい字で，丁寧に，ひっそりと書かれた，同じ筆跡

80-15~81-1: 彼は，遠くから来る匿名の声に支えられて，自らの状況を考えることができた。

Cette voix lointaine, jamais nommée, l'aidait à vivre et à réfléchir sur sa condition. (85-

30~31)

☞ 一度として名前で呼ばれたことのない，この遠くから聞こえて来る声のおかげで，彼は生き，自分の境遇について思いを巡らすことが出来た。

81-6: 死ぬ前から

bien avant la mort (86-8)

☞ 死ぬ**ずっと**前から

81-8~9: 傲慢さと野心から，あなたは不幸を引き寄せて喜びに変えるのではなく，危険なゲームにしました。

Vous avez, par orgueil ou par ambition, convoqué le malheur jusqu'à votre intimité et vous en avez fait non un plaisir, mais un jeu dangereux (86-11~13)

☞ 傲慢さか，それとも野心からなのか，あなたは不幸を**ごく身近な所まで**呼び寄せたあげく，それを喜びではなくて，危険なゲームに変えてしまいました。

81-12~13: この状況は，あまりにも過酷なものだが，あなたにとってはそうはならないでしょう。

cette situation était trop dure pour n'importe qui, mais je pensais qu'elle ne le serait pas pour vous. (86-19~21)

☞ この状況は**誰にとっても**過酷すぎるものでしたが，でもあなたにとってはそうではないだろう**と私は思っていました**。

82-1~2: あなたの心を読みとることもできます。

[...] j'ai appris à lire dans votre coeur (86-29)

☞ あなたの心が読めるようになりました。

82-7~8: 姉たちはあなたを憎み，あなたが出ていくのを待っています。

Elles vous haïssent et n'attendent que votre départ. (87-8~9)

☞ お姉さんたちはあなたを憎み，あなたが出ていくこと**だけ**を待ち望んでいます。

82-8: あなたの母親は

votre mère, une brave femme (87-10~11)

☞ あなたのお母様は，善良な女性で，

82-12~13: もう耳は聞こえず，目も見えなくなりましたが，母親はあなたを待っています。

elle perd l'ouïe et la vue. Elle vous attend. (87-16)

☞ 耳は聞こえず，目も見えません。お母様はあなたを待っています。

83-3: あなたの手紙を

Votre dernière lettre (87-24)

☞ あなたのこの前の手紙を

83-4: だがあなたは，私の孤独の中で，相談相手というより，証人なのだ。

Or, il faut bien que de ma solitude vous soyez plus que le confident, le témoin. (87-26~27)

☞ でもあなたは，私の孤独をうち明ける相手という以上の存在，私の孤独の証人になってもらわねばなりません。

83-14: (中断符号が欠落)

83-14~16: 私は自分の皮を脱ぎ，洗い流し，私につきまとって離れない疑問と，一度も口にしたことのない欲望を捨てるために歩いている。

Je marche pour me dépouiller, pour me laver, pour me débarasser d'une question qui me hante et dont je ne parle jamais: le désir. (88-16~19)

☞ 私が歩くのは自分の皮を脱ぐため，体を洗うため，私につきまとって離れず，私が一度も口にしたことのない疑問から逃れるためです。疑問とは，欲望。

84-1~2: 私は，自分のものではない顔を持ち，名付けようのない欲望をかかえて，気持ちの休まることがない。

Je resterai profondément inconsolé, avec un visage qui n'est pas le mien, et un désir que je ne peux nommer. (88-21~23)

☞ 私は自分のものではない顔と，**口にすることができない**欲望をかかえて，深い悲しみに包まれたままでいることでしょう。

84-2: (原文の改行を無視)

84-4: 罪悪感を植えつけるものが嫌いなのだ。

[je hais] tout ce qui alimente la culpabilité (88-27)

☞ 罪悪感を生むものは全て嫌いです。

84-5~6: イスラム教徒の宿命 (そんなものがあるのだろうか) によれば，われわれには，うさん臭い，卑小な感情はないのだ。

Je pensais que la fatalité musulmane (existe-t-elle?) nous épargnerait ce sentiment mesquin, petit et malodorant. (88-27~29)

☞ イスラム教徒の宿命 (そんなものがあるのだろうか) のおかげで，私たちは，そういったうさん臭い，卑小な，臭みのある感情を持つことはないだろう，**と私は考えていました。**

84-9~11: この国では，家族は絶対権力者の父親と，家の中に追いやられた女たちから成っている。女には，男の領域からはずれたわずかな権威しか認められていない。

Sachez, ami, que la famille, telle qu'elle existe dans nos pays, avec le père tout-puissant et les femmes reléguées à la domesticité avec une parcelle d'autorité que leur laisse le mâle, (89-5~9)

☞ **いいですか，友よ**，私たちの国々に現にあるがままの家族とは，絶対権力者の父親と，**召使いに格下げされた**女たち，オスから譲ってもらったわずかな権威を手にする女たちとから成っていて，

84-13~14: 同じ夢の中に同居させるようなことはしない。

je ne peux pas me permettre le luxe de faire cohabiter dans la même blessure (89-12~13)

☞ 同じ**傷**の中に同居させるような，そんな贅沢な真似はとてもできません。

85-2: ほとんど人の目に触れることがなくなった。

on ne le voyait plus. (89-21~22)

☞ **もう**人の目に触れることはなくなった。

85-4: 彼の母親は字が読めなかったので，この方法を拒み，

Sa mère ne savait pas lire. Elle refusait d'entrer dans ce jeu et (89-24~25)

☞ 彼の母親は字が読めなかった。彼女はこのゲームに加わることを拒み，

85-6: 結婚していたので，苦しんでいる母親に会いに来ることも，ほとんどなかった。

Elles s'étaient mariés et ne venaient que rarement voir leur mère souffrante. (89-27~29)

☞ 結婚していて，ごくたまに病気の母親の顔を見に来る以外は，姿を見せなかった。

85-8: 外に出ることはなかった。

[Il] ne sortait plus. (90-2)

☞ **もう**外には出なくなった。

85-11: 彼の部屋と洗面所の掃除をした。

[Elle] nettoyait sa chambre et la petite salle d'eau adjacente. (90-7)

☞ 彼の部屋と，その続きの狭い洗面所とを掃除した。

85-13: 彼女は，部屋を出るときにワインの空瓶を隠し持ち，

En partant elle cachait dans un sac les bouteilles de vin vides et (90-10~11)

☞ 部屋を出るとき，彼女はワインの空瓶を**袋に入れて**隠し持ち，

85-14:「アラーよ，命と光をお与え下さい」

«Qu'Allah le ramène à la vie et à la lumière!» (90-13~14)

☞「アラーよ，この子を命と光にお戻し下さい!」

86-3: 必要だった。(一文脱落) 皆さん，

Malgré quelque irritation, il continuait à correspondre avec cet ami anonyme. Permettez, mes chers compagnons, que [...] (90-24~26)

必要だった。なにかと苛つくことはあったけど，彼はこの匿名の友だちと文通を続けた。皆さん，

86-7: (原文の改行を無視)

86-14~16: なんの権利があって疑問を追求しているのか，どうしてこれほど，あなたのイメージの顔を元の輪郭に戻したいと思うのか

de quel droit je vous poursuivais de mes questions et pourquoi cet acharnement à rendre à votre visage l'image et les traits de l'origine. (91-22~24)

☞ 何の権利があってあなたを質問攻めにするのか，あなたの顔に元々の姿形を戻そうと，どうしてこんなにこだわるのか，

87-9: 暗い欲望に火をつけよ

[ces demeures]

allume de désir en leur noirceur un feu ..." (92-5~6)

☞ 暗いすみかに欲望の火をつけよ

第9章

88-10~11: 彼は入口に黒板をかけて，白いチョークで，思いついたことや，コーランか祈りの一節を書くようになった。

Il avait pris l'habitude d'accrocher à l'entrée une ardoise d'écolier sur laquelle il écrivait à la craie blanche une pensée, un mot, un verset du Coran ou une prière. (93-19~21)

☞ 彼は，小学生が使う石版を入り口にかけるようになり，思ったこと，言葉，コーランの一節，祈りの文句を白いチョークで書くのだった。

89-2: ある日，

Au jour où notre histoire est arrivée, (94-5)

☞ 物語がたどり着いたこの日，

89-2: (原文の改行を無視)

89-4~5: この頃から，彼は孤独の中を突き進み，それを充実させた。孤独は，彼の目的，そして道連れになっていった。

A partir de cette étape, il va se développer et enrichir sa solitude jusqu'à en faire son but et sa compagne. (94-11~12)

☞ この時以後，彼は成長し，孤独を実り豊かなものにしていくことだろう。そしてついには孤独を自分の目的，自分のパートナーにすることだろう。

89-5~6: ときおり，彼は孤独を放り出し，そこから抜け出して，狂気と破壊的な怒りの中に飛び込もうとした。

De temps en temps, il sera tenté de l'abandonner, de sortir et de tout renverser dans un élan de folie et de fureur destructrice. (94-12~15)

☞ ときおり，孤独を見捨てよう，外に出よう，狂気と破壊の憤怒がほとばしるままに全てをひっくり返してやろう，という誘惑に駆られることだろう。

89-8: 私にとっては賭だ。(一文脱落)

Ce fut pour moi un pari. Je l'ai presque perdu. (94-19~20)

☞ 私にとっては賭だった。今となっては負けたも同じだ。

89-9: だれもがそれに適応しなければならない。

dont tout le monde s'accomode. (94-21)

☞ だれもがそれに適応する

89-13: 限られた魂

ces âmes bornées (94-27)

☞ この偏屈な人々

89-14: 立ちふさがっているこの蜘蛛

cette araignée qui fait barrage et protège, (94-28~29)

☞ 目の前に立って守ってくれるこの蜘蛛

89-16: 私は窓を開けて，壁をよじ登り，

J'ouvrirais ces fenêtres et escaladerais les murailles les plus hautes (95-2~4)

☞ 私はこれらの窓を開け，一番高い壁をよじ登り，

90-2: (原文には中断符号はない)

90-4: 人はどんなふうに言葉を発するのだろうか。

Comment se parle-t-on (95-7~8)

☞ 人々はどのように言葉を交わすのだろうか。

90-5: 低く深い声は，まだ形をなさない思考の反響となるのだろうか。

tellement basse, tellement profonde, qu'elle se fait écho d'une pensée pas encore formulée. (95-9~11)

☞ 声はとても低く，とても奥から聞こえてくる**ので**，まだ口に出してはいない思考のこだまとなる。

90-10~11: 小さな流れ者の火花のように

comme de petites étincelles foraines (95-20)

☞ 市の立つ日の小さな火の粉のように

90-13~14:彼は，私の乳房に重い手を置いた。目を開けて，頭を湯の中に沈め，

Il passa ensuite sa main lourde sur ma poitrine, qui s'éveilla, plongea sa tête dans l'eau (95-25~26)

☞ そのあと，彼がずっしりと重い手を私の胸に乗せたので，**胸は目覚めた**。彼は頭を湯の中に沈め，

90-15: (原文の改行を無視)

91-2: ショックを引きずっている。(一文脱落)

Je suis encore sous le choc du rêve d'hier. Etait-ce un rêve? (96-6~7)

☞ ショックを引きずっている。**あれは夢だったのか**。

91-10: あと何日か，このままにしておこう。(一文脱落)

Je vais laisser passer quelques jours. On verra s'il se manifeste. (96-20~21)

☞ あと何日か，このままにしておこう。**姿を見せるかどうか，今に分かるだろう**。

92-1: (原文の中断符号が欠落)

92-2: (原文の中断符号が欠落)

92-4: 石膏の厚い層の下

sous des couches lourdes d'argile (97-7~8)

☞ 粘土の厚い層の下

92-4: (原文の中断符号が二カ所とも欠落)

92-5: (原文の中断符号が欠落)

92-9: 判事にはユーモアはないが，彼の存在そのものが笑いを誘う

Un juge, ça n'a pas d'humour et ça ne donne pas envie de rire (97-16~17)

☞ 判事にユーモアはなく，**こっちも笑う気になれない。**

92-9: (原文の中断符号が欠落)

92-12: (原文の中断符号が二カ所とも欠落)

92-14: (原文の中断符号が欠落)

92-15: (原文の中断符号が欠落)

93-3: 尻は多少は女性的だ

Seules mes fesses ont quelque chose de féminin (98-5~6)

☞ お尻**だけ**はいくぶん女っぽい

93-12: (原文には中断符号はない)

93-5: それは，星のない夜の中にそそぎこまれた昼となるだろう。(× versé)

Ce sera le jour inversé dans une nuit sans étoiles. (98-8~9)

☞ それは，星のない夜の中の，逆向きの昼間となるだろう。

93-7: スタントマンが出る演し物

un sujet pour la fantaisie d'un cascadeur (98-12)

☞ 曲芸師が出る演し物

93-9: 私はさすらっている。しばらく前から，私は解放感を味わっている。

Je m'égare, mais depuis quelque temps je me sens libéré, (98-16~17)

☞ 私はさまよってはいるが，しばらく前から解放感を味わっている。

93-10: しかし，子ども時代に遡るべきだと人は言うし，私もそう思う。

[Mais on me dit, je me dis,] qu'avant il va falloir remonter à l'enfance, (98-19)

☞ しかし**その前に**，子ども時代に遡る必要が出てくるだろうと人から言われたし，私もそう思う。

94-3: それよりいいのは，一門の前だ!

(前文「天国の真ん中に，」との間を一行あけ，段を上にそろえ，まるで地の文であるかのようにレイアウトされているが，原文では直前の引用文「天国の真ん中に」に続く文章である。)

94-10~11: あなたの感情を通して，私は生きることを学び直している。

Croyez-vous que vos émotions sauront me réapprendre à vivre? (99-10~11)

☞ あなたの感情のおかげで私は生きることを学び直すことが出来るだろう，とお思いなのでしょうか。

94-13: (原文の中断符号が欠落)

94-15: (原文の中断符号が欠落)

95-2~3: あなたは物理的な波長の乱れを感じたと言ったが，それは反感ではないだろうか。(× antipathie)

Vous me parlez de vos perturbations physiques. N'est-ce pas de l'anticipation? (99-24~25)

☞ 体調を崩した，とあなたはおっしゃいましたね。それは前兆なのでは?

95-4: あなたの顔をはっきりさせ，

de dessiner avec le temps les traits de votre visage, (99-26~27)

☞ **時の移り変わりと共に**あなたの顔かたちを描くこと

95-6~8:あなたは，不在の者，哲学者，詩人，予言者ムハンマドの声がどんなものか，考えたことがないだろうか。

N'avez-vous jamais essayé de deviner la voix de l'absent, un philosophe, un poète, un prophète? Je crois connaître la voix de notre Prophète, Mohammed. (99-30~100-3)

☞ 不在の者，哲学者，詩人，予言者の声がどんなものか，当ててみようと思ったことは一度もないでしょうか。私は，予言者ムハンマドの声は分かる気がします。

95-8: 澄んだ穏やかな声で，どんなことにもたじろがない。

Voix calme, posée, pure; rien ne la trouble. (100-4~5)

☞ 穏やかで，落ち着いていて，澄んだ声。何があっても乱れない。

95-17~96-1: それは，あなたの手紙をいつ読むか次第なのだが，私が怒っているとき，あなたの手紙に目を落とすと，聞こえてくママのは，やさしいが耐えがたい女の声だ。

en fait tout dépend du moment où je vous lis. Lorsque je suis en colère et que mes yeux tombent sur une de vos lettres, c'est la voix douce et insupportable d'une femme que j'entends. (100-21~25)

☞ 実際は，あなたの手紙をいつ読むかによります。私が怒っているときに，あなたの手紙のどれかにたまたま目がいくと，甘ったるくて我慢できない女の声が聞こえて来ます。

96-4: (原文にはない改行)

96-8: (原文の中断符号が欠落)

96-13: 必要としている。(一文脱落)

Je n'ose pas en parler encore avec moi-même. (101-12~13)

☞ 必要としている。**いまだに私は，自分に向かってそれを口にするだけの勇気がない。**

97-1: いくつもの体が，私の夢に宿っている。

Des corps viennent habiter certains de mes rêves; (101-18~19)

☞ 人の体がやって来て，私の夢**のいくつか**に宿る。

97-5: 男の体か，女の体だったのか，ぼんやりしたイメージが [...]

Corps d'homme? Corps de femme? Ma tête [...] (101-25~26)

☞ 男の体? 女の体? ぼんやりしたイメージが

97-11: 父は母の方にかがみこみ，母はわずかに呻いていた。

il est baissé sur elle, ne disant rien; elle, gémissant à peine. (102-6~7)

☞ 父は母の方にかがみこみ，**無言**。母のうめく声がかすかに聞こえる。

97-14~16: 馬鹿げているか，あるいは滑稽というべき場面を，私はかいま見たのだった。もうわからない。私の気持ちはどうしようもない。

J'avais entrevu cette scène ridicule ou comique, je ne sais plus, et j'étais inconsolable. (102-12~13)

☞ 私がかいま見たこの光景を，軽蔑して笑うべきか，愉快に思うべきか，自分でももう分からないが，その時の私は深い悲しみにくれた。

97-17~98-1: だがそのイメージは，さらに膨らみ，変形して蘇った。

Mais elle revenait, agrandie, transformée, agitée. (102-16~17)

☞ だがそれは大きくなり，形を変え，動きを伴って，戻って来た。

98-2: 母は父の背中に脚を回して，

ma mère entrourant son dos avec ses jambes agiles, (102-19~20)

☞ 母はしなやかな両脚で父の背中をはさみ，

98-2~3: 父は母を黙らせるために平手打ちをしたが，母はますます叫び，笑い出した。

et lui la frappant pour la faire taire, elle, criait encore plus fort, lui riait, (102-20~22)

☞ 父は母を黙らせようとして平手打ちしたが，母はもっと大きな叫び声を上げ，**父は笑い出した**。

98-7~8: 小さくなった私は，きしんでいるベッドの木枠に貼り付いていたのだ。

j'étais tout petit et collé sur le bois au bord du lit qui bougeait et grinçait; (102-27~28)

☞ 私はとても小さくて，ユサユサ動き，キィキィ音を立てているベッドの端の，ボードの上に貼り付いていた。

98-9: 私は息がつまり，咳をしたが，

j'étouffais; je toussais (102-30)

☞ 私は息が詰まった。咳をしたが，

98-11: (原文の中断符号が欠落)

98-11~12: やっとのことで，尻の皮膚を木片の上に残して，走り出した... 。尻から血が流れ，泣きながら，町を出て森の中を走った。

..., je tirai et m'accrochai, laissant sur le morceau de bois la peau de mes fesses..., je courais, mon derrière en sang, je courais en pleurant, dans un bois à la sortie de la ville, (103-2~6)

☞ 私は引っ張り，歯を食いしばった。木片の上にお尻の皮膚が残った... 私は走った。お尻から血を流し，私は泣きながら，町はずれの森の中に走り込んだ。

98-12~13: だが私は小さく，父の巨大な陰茎が追いかけてきて，私をつかまえ，家に連れ戻した... 。

j'étais petit, et je sentais que l'énorme membre de mon père me poursuivait, il me rattrapa et me ramena à la maison... (103-6~8)

☞ 私は小さく，父の巨大な一物が追いかけてくる**気配を感じた**。私は捕まり，家に連れ戻された。

98-15: 頭が重い，頭をどこに置こうか，下ろそうか，

(原文では全て句点) (103-11)

99-5: どうしようというのか。

Oui, où en étais-je? (103-26)

☞ そうだ，何の話をしていたんだっけ?

99-6~7: 頭をどこかにやってしまいたい。そして，自分自身に集約された体がジャスミンとバラの花束の中に入って私のもとに届くのを，待っていたいのだ。

Je voudrais la perdre, ne serait-ce qu'une fois, j'attendrais, le corps ramassé sur lui-même, j'attendrais qu'on me la ramène dans un bouquet de roses imbibées de jasmin... (103-26~29)

☞ **たとえ一度限りでもいいから**，頭をなくしてしまいたい。**私は体を丸めて**，待とう。ジャスミンの香りが立ちこめるバラの花束に入れて頭を返してくれるのを，私は待とう。

99-8: (原文にはない改行)

99-10: (原文には中断符号は無い)

100-7: 朝すぐに出発でき，旅をしてさまよい，

«*Le matin même.* Je ne sais si c'est une chance ou un piège de pouvoir partir, voyager, errer, oublier. (104-20~21)

☞「**同じ日の朝**。[...]

100-11~12: 私はここに残ってあなたの手紙を待つ。その手紙を読むのは，旅立つことでもある... 。

Je resterai ici, immobile, à attendre vos lettres; les lire, c'est partir..., (104-27~29)

☞ 私はここに残り，**身じろぎもせず**，あなたの手紙を待ちましょう。手紙を読むことが，旅に出ることです...

101-9: 子どもなら，自分で作れるではないか。

Un enfant? Je pourrais en faire un, (105-22~23)

☞ 子ども? 自分で作れるだろう。

102-5: 姉たちが家を出た。

»J'ai appris que mes soeurs avaient quitté la maison. (106-11~12)

☞ 姉たちが家を出た**そうだ**。

102-5~6: 母は部屋に閉じこもって，何も言わずひっそりと暮らしている。

ma mère s'est enfermée dans une des pièces et purge selon sa volonté un siècle de silence et de réclusion. (106-12~14)

☞ 母は部屋の中のひとつに閉じこもり，沈黙と禁錮百年の刑に自ら進んで服する。

102-6: 屋敷は広く，古びて，廃墟になっていく。

La maison est immense. Elle est très usée; elle tombe en ruine. (106-15~16)

☞ 屋敷はだだっ広い。酷使され，廃屋と化す。

102-7: 私が一方の端にいて，母はもう一方の端にいるのだ。

Ainsi, moi je tiens un bout et ma mère un autre bout. (106-16~17)

☞ こうして私が一方の端をつかみ，母がもう片方をつかむ。

第10章

103-3~4: だが，彼はもう今までの彼ではない。

Mais c'est un être qui ne s'appartient plus. (107-6~7)[4)]

☞ だが，もう自由がきかない人間だ。

103-5: コーランの一節を思い通りに言いかえるくらいかまわないではないか。彼を許そう。

il prend quelque liberté avec un verset, un seul verset, sachons le lui pardonner! (107-8~9)

☞ 詩句の一節の引用が，ちょっと不正確だったが，たった一節だ，許してやろうじゃないか!

103-5~6: それに，われわれは裁く者ではい[ママ]。

Et puis nous ne sommes pas ses juges; (107-10)

☞ それに，彼を裁くのは，われわれではない。

103-7~8: 重く穏やかな手が，一人一人を結びつけているのだ。

une main lourde et sereine nous lie les uns aux autres, nous procurant la lumière de la patience. (107-13~14)

☞ 重く静かな手がわれわれ一人一人を結びつけ，忍耐の光を与えてくれる。

103-10~11: 眼から眠りを取り去り，物語の順序を乱し，

[ce vent qui ...] nous retire le sommeil des yeux. Il dérange l'ordre du texte et (107-18~20)

☞ 眼から眠りを取り去る。物語の順序を乱し，

104-6~7: 水はすべての文章を消していく。

l'eau n'efface pas toutes les phrases; (108-14)

☞ 水は文章をすべて消してしまう**わけではない**。

104-11: 言葉を発しようとする

le délivrer des mots (108-23)

☞ 言葉から解放する

105-1~2: 部屋も壁も通りも家の階も揺れる。むしろ，言葉を生み出すために，揺れ動くときなのだ。

le moment où les pièces et les murs, les rues et étages de la maison s'agitent ou plutôt sont agités par la fabrication des mots (109-3~5)

☞ 部屋も壁も，通りも家の階も揺れる瞬間，と言うかむしろ，言葉を作ることによって揺らされている瞬間なのだ。

105-4: 文章によって明確にされた表象

les signes frappés par les syllabes (109-10)

☞ 音節によって刻みこまれた印

105-7: 夜明けが示す前に

avant que l'aube ne pointe! (109-16~17)

☞ 夜が明ける前に!

注

1) 茨城大学人文学部紀要『人文学科論集』33 (2000), pp. 103-131.
2) *Faire son deuil de quelque chose*, se résigner à en être privé. (DFC).
3) *Les moyens du bord*, ceux qu'offre la situation. *Il faudra se débrouiller avec les moyens du bord.* (Le Petit Robert)
4) *Ne pas s'appartenir*, ne pas être libre d'agir comme on l'entend. (DFC)